

# 令和5年度 学校努力点

## 1 研究主題

### 「自分の命を守り抜く児童の育成」(1年次)

#### —実践的な避難訓練を通して—

## 2 努力点のねらい

本校では、地震や火災が起きたときの身の守り方についての理解力や実践力を高め、いざというときに自ら判断して行動できる力を身に付けさせることを目的とし、毎年避難訓練を行っている。児童は、訓練時に教員から指示されたことについて、指示通りに取り組むことができている。しかし、「放送で指示が入らない」場合や「教員がそばにいない」場合などに、児童が自分の命を守るために、自ら適切に判断し主体的に行動する姿はまだあまり見られない。中には、訓練に対し受動的に参加しており、災害を自分事として捉えられていない児童の姿も見られる。

実際に南海トラフ地震のような大きな地震が起こった際に教員が傍にいるとは限らない。休み時間や登下校中かもしれないし、家で起こるかもしれない。災害時には、教員の指示がなくても、児童は自ら判断して自分で自分の命を守らなければならない。

そこで、災害を自分事として捉え、適切に判断し主体的に行動することができる力を身に付けさせることで、自分の命を守り抜く児童を育成する。そのために、余震を伴う訓練、停電が発生することを想定し校内放送を使用しない訓練、悪天候時や揺れの渦中など運動場に集合することが合理的でない場合を想定した訓練など、避難訓練の内容をより現実的なもので想定し、実践的な避難訓練を行っていく。その手立てとして、以下を示す。

### (1) 見通し・行動・振り返りサイクル

見通し→行動→振り返りのサイクルで避難訓練を行うことで、災害を自分自身が解決すべき問題と捉えることができ、適切な判断や主体的な行動につながる。

#### ① 見通し(1時間の事前指導)

災害について予測することで初めて、自分が行おうとする行動がどんな結果をもたらすのかを考えることができる。

#### ② 行動(避難訓練)

「見通し」をもつことで、何のために行動するのか、あるいは何を目標して行動するのかといったことが明らかになっている。また、そこでの行動が、本来目指した形で行うことができたかについて「振り返り」を行うことに繋がる。

#### ③ 振り返り(事後指導)

振り返りによって自分自身や他者の行動を客観的に評価することで、将来の行動の改善につなげることができる。

## (2) リスクコミュニケーション

リスクコミュニケーションは、文部科学省の「リスクコミュニケーションの推進方策」(2014)の中で「リスクのより適切なマネジメントのために、社会の各層が・共考・協働を通じて、多様な情報及び見方の共有を図る活動」と定義されている。

児童同士の協働や教師との対話等を通じ、自己の考えを広げ深めることで、災害について主体的な理解を深め、リスクに対してどう行動するべきかという意思決定過程への関心を高める。

振り返りの場面でのリスクコミュニケーションの一つとして、「1枚ポートフォリオ」を使用する。1枚ポートフォリオは、学習前後の児童の知識や思考の変化を見取ることができる。児童は毎授業時間後に「授業の一番大切なこと」を記入し、教師はそれに対して「具体的に言うとは何か」「わかったことは何ですか」など、思考を促すコメントを一言添える。それにより、児童はさらに自分の考えや教師の言葉と対話し、学びを深める。

## 2 目指す姿

### 【低学年】

災害で起こる危険について知り、近くの大人の指示に従い、適切な行動ができる。

### 【中学年】

災害で起こる様々な危険について知り、自分の考えで命を守るための適切な行動をとることができる。

### 【高学年】

日常生活の中で起こる様々な災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなく、周りの人の安全にも気配りができる。